

## 【さんすう】

「※」はべんきょうするときの せんせいからの アドバイスです。

<学習内容>

◆「のこりはいくつ」（きょうかしよ 61～63 ページ）

なんにん いるでしょう？  
おはなしの とおりに ブロックをおいて うごかしてみよう

(1) 8にんで キャンプに きました。



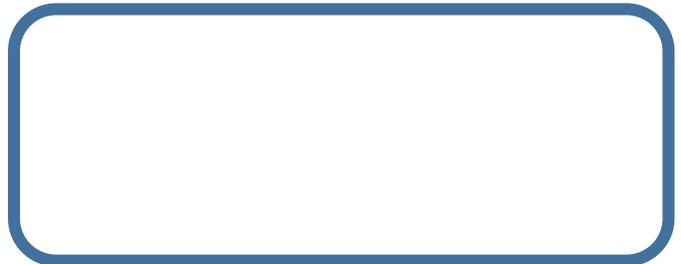
※わくのなかに ブロックをおきます。

(2) その うち 3にんが  
おとなです。



※おとなのかずのブロックを えんぴつでかこもう。

(3) こどもは  にんです。



おはなしに あわせて  
ブロックを うごかすことが できるかな？

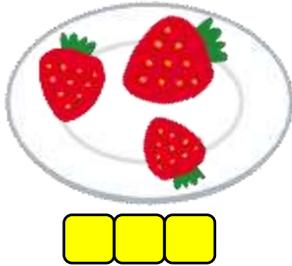
8あって おとなの3をとると、のこりは こどもに なります。  
これを しき であらわすと…

しき  $8 - 3 = 5$   
8ひく3は5

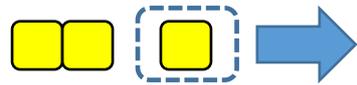
こたえ **5** にん

それぞれ のこりは なんこでしょう。  
しかくに すうじを いれましょう。

はじめにいちごが3こあります。

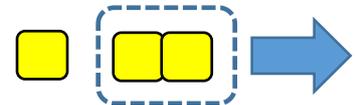


1こたべると…



①  $\square - \square = \square$

2こたべると…



②  $\square - \square = \square$

たべないと…



③  $\square - \square = \square$

保護者による関わり方のポイント>※可能な範囲でお願いします。

◆のこりはいくつ（教科書 P61～63）

・ひき算の学習が進んでくると、計算して答えを求めることはできるようになってきますが、「問題場面」と「ひかれる数」や「答え」の関係に目を向けることは、とても難しいことです。もし①と②を見て、「答え」と「赤で囲んだ数字」が反対になっていることに気付いたら、式の関係性に注目しているということです。